

第4学年

教科	課題分析	授業改善策
国語	(1)各領域において、知識や技能の個人差が大きい。書くことでは、漢字や仮名を用いたり、正しく改行したり句読点を適切に打ったりする技能面で課題がある子供が多い。 (2)自分の考えや感想をもつことはできるが、それらを他者に伝えることが苦手な子供が多い。話すことでは、相手に何を伝えたいのか目的を意識した話し方ができるよう力を付ける必要がある。読むことでは、作者の思いや、登場人物の気持ち、背景などを読み取り、自分の感想を他者に伝えることができるように指導する必要がある。	(1)作文を書く際に構成シートを作成してから書くようにし、段落や文章のつながり、自分の考えを意識して書けるようにする。漢字については定期的に小テストを行い、再テストなどを通して定着を図る。 (2)話すことについては、朝の会や小グループでのスピーチなど、相手を意識した話し方ができる場を多く設ける。また、実態に合わせて話したい内容を精選するためのワークシートを使用する。友達との意見交流の場を充実させ、相違点や共通点を整理し、情報の共有を図る。全体や小グループを使い分け、全員が自分の考えを伝えられるよう配慮する。
社会	(1)学習課題に対して、必要な情報を集め、読み取った後、問題解決に沿ってまとめる力に課題がある。 (2)社会的事象について、主体的に問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を高めていく必要がある。	(1)調べ学習をする際に、タブレットを用いて、必要な情報を探し出す時間をとる。また、単元のまとめではリーフレット等を作成し、収集した情報を活用する能力を育む。 (2)単元の終わりに、学習したことを基に社会的な課題に対して自分たちができることを考えさせ、リーフレットやポスター等にまとめる。内容をできるだけ具体的なものにする。
算数	(1)既習事項の理解や、正確に計算したり図をかいたりする技能は、個人差が大きく、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る必要がある。 (2)計算の意味の理解にまでは至っていない子供が多い。 ・自分の考えを分かりやすく表現する力を高めていく必要がある。	(1)課題を提示し、自力解決をする前に、必要な既習事項を振り返る時間を設定する。 (2)子供の実態を把握し、それに応じて必要な図等を提示して活用できるようにする。
理科	(1)観察・実験には意欲をもって取り組んでいるが、見通しをもたないまま取り組んでいる子供が多く見られる。 (2)結果と考察を区別できていない子供が見られる。 (3)学習が授業内に留まっている。	(1)予想を立てる場面で、既習内容や生活経験を想起させることで、根拠をもった予想が立てられるように工夫していく。 (2)実験結果を全体で共有した後、問題を振り返らせてから、結果に基づいた考察に取り組むようにする。 (3)授業での学習が日常生活に生かすことができるような具体的場面を問題に設定する。

音楽	(1)ハ長調の楽譜を読むことに慣れていない子供が多い。器楽では、特にリコーダーに苦手意識をもつ子供が若干数いる。 (2)曲のよさや特徴に気付き、どのように歌いたいか伝えることができる半面、思いや意図を表現の工夫に生かすまでには至っていない。 (3)意欲的に取り組む子供も多いが、感じたことや気付いたことを伝え合う場面では、発言できない子供もいる。	(1)リコーダーは、常時活動の工夫をしたり、個別に楽譜を選んだりできる工夫をし、スモールステップで学べるようにする。 (2)様々な表現方法を試し、感じたことや気付いたことを全体で共有し、工夫する楽しさや意図を味わえるようにする。 (3)グループ活動を取り入れ、友達の意見を聞いたり発言したりしやすい場を設定し、自信をもてるようにする。
図画工作	(1)筆やパレットの使い方が巧みな子供が多いが、玄翁やノコギリ、段ボールカッターなどの道具にはあまり触れていない。 (2)豊かに発想して作品づくりに取り組んでいる子供が多いが、自分にできる範囲で描くものを決めてしまう子供もいる。 (3)図画工作の授業に意欲的に取り組むが、自信のないモチーフには挑戦しない子供が多い。	(1)同じ道具を複数の題材で使うようにし、中学年で体験する道具に触れる機会を多くして、道具の扱いに慣れさせていく。 (2)構想を決めてからつくるだけでなく、偶然生まれた形から発想を広げる課題を取り入れ、発想の枠を広げる。 (3)高い意欲を維持できるように魅力があり、かつ少しずつ難度が高くなるような題材を実施していく。
体育	(1)運動の行い方は理解しているが、基本的な動きや技能に個人差が見られる。 (2)運動の知識があったり技能が高かったりする子供は、課題解決に向けて工夫を考えられる。運動が苦手な子供は工夫の幅が狭くなり、課題解決が困難になってしまうことが多い。 (3)課題を見付けることはできているが、課題を次のめあてに生かすことができていない。	(1)主運動につながる基本的な運動を取り入れて、基礎的な技能が獲得できるようにする。 (2)運動のポイントと比べて、自分は何ができて、どこができていないのかを、教師や友達の助言から把握できるようにする。 (3)学習カードを活用し、授業の導入で、前回の振り返りを思い出させ、自己のめあてを明確にさせる。振り返りの際には、次回の課題を書いておくように指示する。
外国語	(1)学校の外で学習している子供とそうでない子供で差が見られる。昨年度までの内容が定着している子供とそうでない子供の個人差が大きく、3年生の学習内容の基礎的・基本的な学習内容の定着も図る必要がある。 (2)日本語にはない発音を上手く発音することに苦手意識をもつ子供が多い。聞こえた音を繰り返すことはできるが、文字や写真を見て正しくそれに合った外国語を発音できる子供は少ない。 (3)大半の子供が、毎回の学習のめあてに向かって積極的に学習に取り組んでいる。外国語活動の学習に自信のない子供は、途中で取り組みを諦めてしまう様子も見受けられる。	(1)毎回の学習を始める前に前回までの復習を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。 (2)ICTをフラッシュカードの要領で効果的に使い、新出単語を表現できるように繰り返し復習していく。ALT を効果的に活用し、ネイティブの発音でたくさん練習を重ねる。また、外国語特有の音声を発音することができるようにする。 (3)各単元のめあてを提示し、子供が見通しをもって学習することができるよう工夫する。子供が楽しく活動しながら外国語を学習できるような、効果的な学習活動を取り入れる。